

歩きたくなる暮らし～立体街路を内包する家～



【コンセプト】

人生100年時代となった今、ますます健康寿命に対する人々の意識は高まっている。食・運動・睡眠など、健康に不可欠な要素は多くある。日常生活の中で、気軽に「運動」を取り入れることはできないか。自身の生活を振り返り、健康維持のためにできることは何かと考え、注目したのは「歩く」という行動である。歩くことのメリットとして、体力の維持、ストレス発散などがあげられ、体や心にプラスとなる。「1日8000歩。健康の為に歩こう」と言われるが、普段の生活では難しい。そこで、歩ける環境を住宅内に取り入れようと考えた。しかし、ただ歩くだけでは退屈で、単に不便な住宅となる。

そこで今回の提案として、住宅の中心に吹抜けのホール空間をつくり、廊下や階段を多く持つ立体街路を挿入することとした。それらは単なる機能的なものではなく、各部屋と接続することで、それぞれの部屋の要素が少しはみ出した空間となる。また、吹抜け空間となっているため、住宅内を見渡すことができ、階数を越えたコミュニケーションが可能になる。「歩く」に「楽しさ」が加えられたこの住宅は、家の中心が歩きたくなる空間として機能し、居住者はたくさん歩こうと思うだろう。「今日も歩きたい」、そう思いながら自然と歩くことで、健康に繋がる住宅を私は提案したい。

【ダイアグラム】

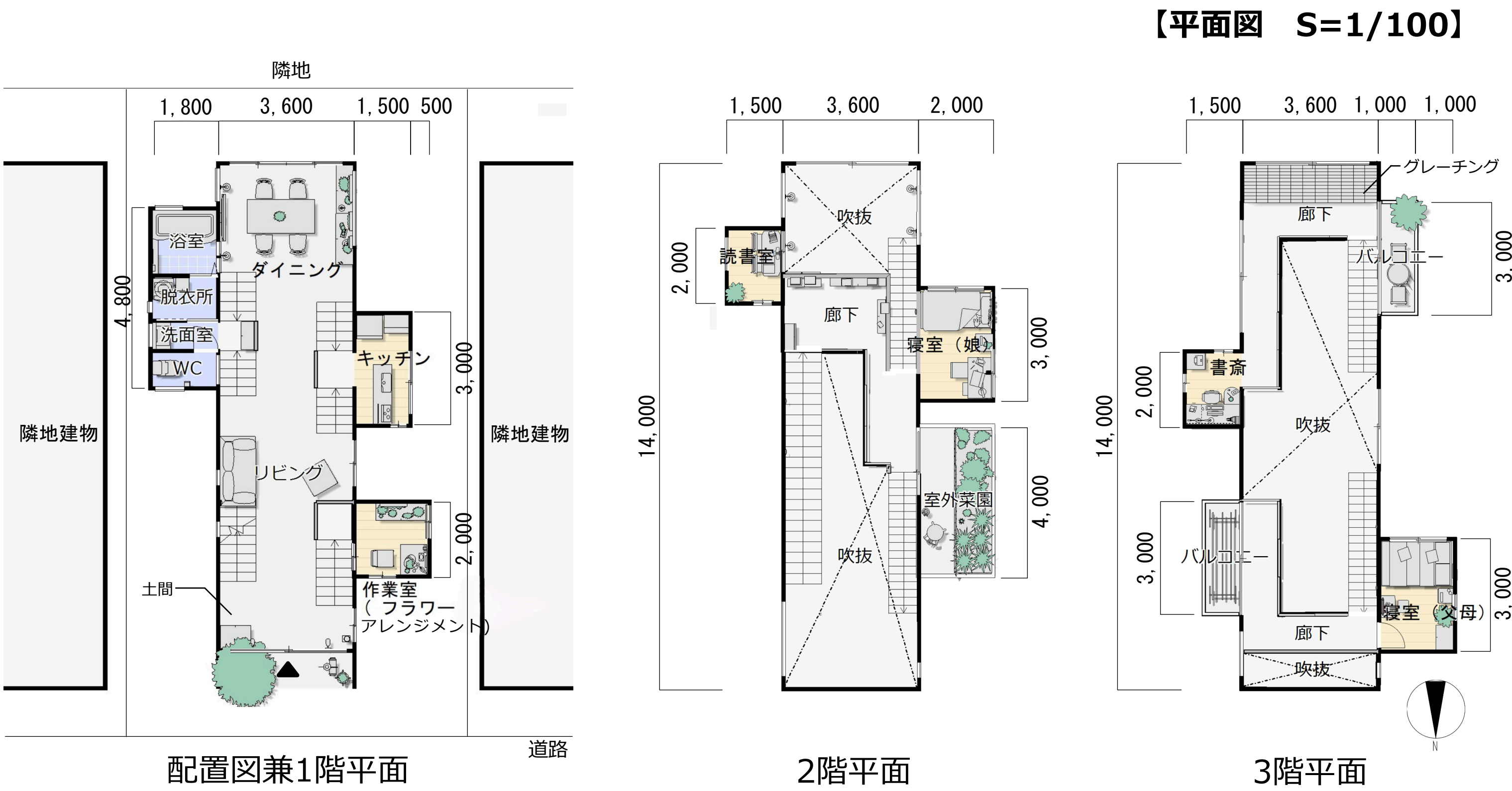
従来の住宅は、平面的に歩き回る空間であるが、都心に対応する空間として、立体街路を取り入れた。

【計画地】

ビルが立ち並ぶ仙台市中心部。公共交通機関が整備されており、利便性が高い。ビルとビルに挟まれた細長い土地である。

周辺環境

計画地周辺



【暮らし方】

この住宅には、3人家族(父、母、娘)が住んでいる。父はIT業界に勤めており、母は、ハンドメイド作家としてフラワーアレンジメントをしている。また、娘は市内に通う大学生である。3人の生活にとって、都心部に暮らすことで利便性を確保しながら、郊外に住むような豊かなアクティビティスペースの空間が求められた。そこで、周辺がビルに囲まれた細長い敷地に対して、この立体街路を設けることで、吹抜のホール空間が庭の代わりとしての機能を担い、3人のワークライフバランスを実現するような空間を目指した。

配置図兼1階平面

2階平面

3階平面

1階 ダイニング

上部にあるグレーチングからは風が抜け、住宅全体に風が循環する。また、建物の奥まで空間が抜けているため、広々と見える。

2階 読書室

デスクワーク部屋(3階)側の廊下からは、住宅の中心部に要素が少しはみ出した各々の部屋の様子がわかる。

3階 書斎

2階の廊下からは、1階と3階の中間地点として、それぞれの階の様子を吹き抜けホール空間を通して見ることができる。

1階 作業室 (フラワーアレンジメント)

2階 寝室 (娘)

この部屋は壁が一部ないため、階段と廊下を通して、コミュニケーションがとれるようになっている。

2階 室外菜園

3階 寝室 (父母)

3階 寝室 (父母)